

令和5年度
札幌市民交流プラザ
事業報告書

公益財団法人 札幌市芸術文化財団

目 次

I	管 理 業 務 の 実 施 状 況・・・・・・・・・・・・・・・・	1
II	管 理 業 務 に 係 る 収 支 決 算・・・・・・・・・・・・	19
III	管理に関する協定書 第34条に規定する自主事業の実施状況・・	20

I 管 理 業 務 の 実 施 状 況

1 統括管理業務

▽ 管理運営に係る基本方針の策定

「文化芸術活動及び生涯学習の振興並びに人々の来訪及び交流の促進を図り、もって市民の創造性を育むとともに、市民生活の向上を実現するほか、地域のにぎわいの創出に寄与する」というプラザの設置目的に基づき、以下の6つの基本方針を策定した。財団統一で策定した中期経営計画に基づき、当財団だからこそ実現可能な主催事業や当財団が管理運営を行う他施設との連携事業などを通じて、市民の多様なニーズを捉えたオリジナリティに溢れた施設運営に取り組んだ。

- ① 良質かつ多彩な文化芸術の提供と北海道発の文化芸術の創造
- ② 文化芸術の水準を高める拠点としての役割
- ③ 今後の文化芸術を担い、支える人々の育成
- ④ すべての人々が文化芸術を享受できる開かれた施設
- ⑤ あらゆる人々がつながり、交流するにぎわいの空間
- ⑥ 安全・安心・快適な施設環境の提供

▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績

▼ 札幌市の公の施設であることに鑑み、公平性を重視した運営を行うため以下の方針を策定し、実施した。

- ① 公開抽選による施設申込
利用月 13 か月前の一斉受付による申込受付
- ② 随時予約による施設申込
一斉受付終了後、空き施設を先着順で受付
- ③ 優先受付による施設申込
長期の準備が必要かつ大規模な事業に限り、24 か月前の受付

▼ 特定団体の専有を防止し、多くの利用者への平等な利用を実現するため、継続利用を原則 7 日以内に制限している。

▼ LGBTQ の課題や差別について考える研修、接客・接遇に関する OJT など、不当な差別的行為が発生しない体制づくりに取り組んだ。

▼ 筆談具やコミュニケーション支援ボードなどを配置し、障がいのある方が利用しやすい環境整備を行った。公式ホームページにおいては、外国語ページを作成、また自動翻訳機を導入したことにより、外国人が利用しやすい情報の提供を行った。

▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進

- ▼ 「札幌市環境基本計画」に順じ、環境保護、コストの縮減、職員への環境意識の徹底に努めた。

具体的には、まず照明に関して、設備員との打合せを密にし施設貸出時間外の点灯を必要最小限に抑え、全館の照明スケジュールも定期的に見直すことで徹底的に節電に努めた。 毎日の貸室チェックにて、利用者退出後の空調スイッチの切り忘れを見つけることも節電に繋がっている。

また、空調（換気を含む）については、貸出時間外の施設も温湿度の一定程度の維持や感染症対策のため、稼働は必要ではあるものの、設定を間欠運転（稼働・停止を一定時間毎に繰り返す）とすることで、省エネルギーとの両立を図った。

- ▼ 札幌市環境マネジメントシステムに則り、エネルギー等の使用実績を集計し、省エネルギーの推進及び温室効果ガスの排出抑制に取り組んだ。
- ▼ 財団施設課長による環境マネジメントシステム研修に参加し、環境意識を高めた。

▽ 管理運営組織の確立

（責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成）

- ▼ 市民交流プラザ事業部長(館長)を施設の統括責任者として配置した。
- ▼ 職務内容に応じて正職員、契約職員、パート職員などを適正に配置するとともに、清掃、警備、設備などの維持管理委託業者を配置し、実効性の高い重層的な管理体制を構築した。
- ▼ 職員の事務分掌を作成し、業務分担を明確化した。
- ▼ 各課で行う事業特性や業務量を考慮し、適切な人員配置を行い、安定的に運営した。
- ▼ 基礎的・専門的知識の向上のため、以下の職員研修を実施した。
 - 4月・5月 新採用研修、コンプライアンス研修
 - 5月 普通応急手当講習
 - 10月 管理職マネジメント研修
 - 11月 コンプライアンス研修
 - 2月 情報セキュリティポリシー研修
 - 3月 情報セキュリティ研修

▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

- ▼ 事業部連絡会議、各課全体会議、課長会議、係長会議などを定期的に行い、施設運営上の課題解決に向けて検討・協議を行い、事業部全体の業務水準の維持向上に努めた。
- ▼ 財団管理の各施設をネットワークで結び、共用のグループウェアソフトを活用することで、迅速かつ効率的な情報共有・意思疎通を図っている。

また、財団共用の財務・会計システム利用により、予算執行状況の把握・各

種伝票の起票を効率的に行っている。

- ▼ 事業部内では職員だけではなく、清掃・警備・設備・舞台技術等の常駐委託業者とも上記グループウェアソフトを活用し、情報共有・連絡伝達を行っている。

情報共有の媒体を一元化することで、利用者・来館者への迅速かつ正確な対応に繋げている。

- ▼ 各常駐委託業者と日常的に綿密な連絡体制を敷くことで、業務中に発生した問題等は速やかに報告を受け、対処を行った。
- ▼ 5年ぶりに公式ホームページをリニューアルし、トップページから各利用者が求めている情報に迷わず辿り着ける利便性の高いページデザインとし、利用者の満足度を向上するとともに、自動回答ツールを導入したことによる業務の効率化とコストダウンを図った。更には、英語・中国語（簡体字、繁体字）・韓国語に対応した翻訳ツールを導入、外国人向けに情報発信を行う体制を整えた。ウェブアクセシビリティへの対応にも留意し、JISX8341-3:2016 の適合レベルAA 準拠を維持した。
- ▼ 新型コロナウイルス感染拡大防止策として休止していた無線機の貸出を再開。主催者からの貸出再開の要望に応え改善した。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理（業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認）

- ▼ 業務仕様書に基づき、安全な施設運営を行うために必要な専門性を有する人材の確保、及び適正な業務履行の徹底を要請した。

委託者側、受託者側双方に責任者を置き、常に業務の実施状況を共有したほか、受託者より提出を受けた業務完了報告書による履行確認を行った。

- ▼ 清掃、警備、設備など施設の維持管理業務や法定に基づく各種点検業務などを第三者に委託した。
- ▼ 館内にチケットセンターを設置し、当財団の主催公演や貸館利用者が開催する公演チケットの他、市内の文化施設で開催される公演チケットについて効果的で効率的に販売するため、市内業者に業務委託した。
- ▼ 広報誌「wave times+」を作成し、主催事業の紹介や公演・イベントのスケジュール、チケット販売状況などを発信している。校正等は委託業者と密に連携を取り、品質の維持・向上に努めた。
- ▼ 札幌文化芸術劇場は高度な舞台機構や音響・照明設備を備えていることから、それらの舞台設備を活用するため、高い専門性を持った舞台技術スタッフを配置するとともに、業務の一部を委託し、委託者と連携を図りながら業務を行った。
- ▼ 主催公演における劇場案内及びエスカレーターの安全誘導、貸館公演におけるエスカレーター安全誘導及び劇場案内補助について、業務を効果的かつ合理的に実施するため、一括して専門的な知識または経験を有する専門事業者に委託した。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整（運営協議会等の開催）

▼ 市民交流プラザ施設運営協議会の開催

開催回	協議・報告内容
第1回 (R5.6)	・令和4年度の施設の利用状況について ・施設利用に伴うアンケートの集計結果について
第2回 (R5.9)	・施設の利用状況について(令和5年4月～8月) ・施設利用に伴うアンケートの集計結果について
第3回 (R5.12)	・施設の利用状況について(令和5年4月～11月) ・施設利用に伴うアンケートの集計結果について ・避難訓練コンサートの実施報告について ・施設管理運営について
第4回 (R6.3)	・施設の利用状況について(令和5年4月～令和6年1月) ・施設利用に伴うアンケートの集計結果について
<協議会メンバー> ・地元自治会： 中央地区町内会連合会総務部長 ・利 用 者： 音楽事務所代表 ・有 識 者： 大学教授 ・行 政： 札幌市市民文化局文化部長 札幌市教育委員会 図書・情報館長 ・指定管理者： 市民交流プラザ館長	

▽ 財務（資金管理、現金の適正管理）

- ▼ 資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとに区分した経理を実施しており、公認会計士による外部会計監査を導入している。
- ▼ 現金等の取り扱いについては、現金取扱要綱を策定し、分任出納員として任命された職員による厳正な管理を行い、財団の内部監査や市による業務検査などで定期的な確認作業を行った。
- ▼ 現預金の入出金については、複数の職員による相互確認を実施し、不適切な処理が行われないようチェックした。
- ▼ インボイス制度の導入に伴い、インボイス対応の請求書や領収証を作成。会計システムを用いて適格請求書発行事業者を整理し管理している。
- ▼ 会計事務の電算化を進めて、可能な限り現金を直接取り扱うことのない仕組みとした。

▽ 要望・苦情対応

- ▼ 要望・苦情は発生次第速やかに対応を検討し、担当する部署及び館長とも共有したうえで、対応を行った。

利用者・来館者から寄せられた要望・苦情については、関係する常駐委託業者とも情報共有を行い、利用サービスの向上に繋げた。

また、貸館諸室の場所が分かりづらいと声をいただくことが多いため、案内表示を増やすことで場所を明確化し、利用者・来館者の利便性向上に努めた。

- ▼ ホームページにお問い合わせフォームを設け、問い合わせや要望・苦情が寄せられた際には、図書・情報館やその他の関係部署を交え対応を検討し、電子メール等で迅速な回答を行うとともに、今後の利用サービスの向上に繋げた。
- ▼ 市の関わりが必要と考えられる要望・苦情については迅速に市に報告した。

▽ 記録・モニタリング・報告・評価（記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施）

- ▼ 指定管理業務に関する下記の記録・帳簿等については適切に整備保管した。
 - ・ 管理業務に関する諸規定
 - ・ 文書管理簿
 - ・ 各年度の事業計画及び事業報告書
 - ・ 収支予算・決算に関する帳簿
 - ・ 金銭出納に関する帳簿
 - ・ 物品の受払いに関する帳簿
 - ・ 各種業務に関する記録書類及び札幌市が必要と認める書類
- ▼ セルフモニタリングについては、来館者、利用者、主催事業の参加者の満足度を測定するため、アンケート調査を実施した。また、半年ごとに業務検査や財務検査を行い、業務に関する自己チェックを実施した。
- ▼ 札幌市への事業報告や事業評価等については、協定の定めに応じて提出をした。

2 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上

▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上（事故の有無などの安全衛生面を含む）

- ▼ 適正な内容で 36 協定を締結したほか、雇用環境の維持向上のため、関係法令に基づき財団諸規則等の見直しを行い、労働基準監督署に届け出た。
- ▼ 給与の額や支給方法等の雇用条件については、財団の例規として、職員、契約職員、パート職員の各々について就業規則を定めているほか、職員については別途給与規程を制定し明示している。これらを変更する場合には職員の過半数を代表する者の意見を聴取し、行政官庁への届出を行っている。また、賃金台帳など法定帳簿等も整備している。
- ▼ 就業規則を含む例規集は、グループウェアにより、常に各職員が閲覧可能な状態としている。
- ▼ 定期的に開催する役職者会議で職員の超過勤務時間を確認するとともに、適

正な時間外勤務の執行に取り組み、職員の健康管理の増進及び仕事と家庭の調和の実現（ワークライフバランスの推進）に努めた。

また、札幌市ワーク・ライフ・バランス plus 企業（ステップ3）として認証を受けているほか、次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画（6年計画）及び女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画（3年計画）を現在遂行中である。

- ▼ 毎月の給与の計算や社会保険・労働保険関係の各種手続き等は、財団の総務部署を通じて社会保険労務士事務所に委託しており、労働関係法令改正への対応についても、社会保険労務士と相談して行っている。
- ▼ 当財団衛生委員会要綱に準じ衛生委員会を開催し、衛生管理者、産業医とともに労働災害の防止、職員の健康維持、職場環境の向上に努めている。
- ▼ 産業医の選任のほか、顧問弁護士も導入しており、これらの専門家による、心身の健康面、雇用、仕事以外の事柄も含めた個別相談に応じる体制を採っている。また、各種相談窓口の設置を通じて、働きやすい職場づくりに努めている。
- ▼ 改正労働安全衛生法に基づき、職員の心理的な負担の程度を把握するための検査（ストレスチェック）及びその結果に基づく医師の面接指導を実施している。職員自身のストレスの程度を把握し、ストレスへの気付きを促すとともに、高ストレス状態にある職員が医師の面接指導を受け、必要な範囲で就業上の措置を講じることで、メンタルヘルス不調を未然に防止することに努めている。
- ▼ 労働環境を向上させるため、年5日以上有給休暇の取得徹底や、業務の見直しなどによる時間外勤務の削減に努めた。
- ▼ 高齢者等雇用の安定等に関する法律に基づき、定年（60歳）退職後に、希望者を65歳まで継続雇用し、高齢者の雇用を促進した。

3 施設・設備等の維持管理業務

- ▽ 総括的事項（利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入）
 - ▼ 拾得物及び遺失物は、さっぽろ創世スクエア管理組合と情報共有を図り、利用者からの問い合わせに対して即時に対応できるよう努めている。なお、一定の保管期間が経過し、引き取りのない拾得物や、貴重品については最寄りの警察署または交番に引き渡し、適切な処理に努めている。
 - ▼ 施設の環境の改善と安全性向上のため、定期的な巡回や点検を行っている。特に、施設内の共用スペースにおいては多数の来館者が往来するため、防犯カメラを設置・運用することで、非常時に的確・迅速に対応ができるよう備えている。
 - ▼ 新型コロナウイルス感染拡大防止策として、職員のマスク着用、貸館窓口へのパーテーション設置、貸出備品のアルコール消毒、館内各所へのアルコール消毒液の設置、劇場主催者へのサーモカメラの貸出、諸室のCO2濃度測定とこまめな喚起を行うなど、利用者が安心安全に利用できる環境の提供に努めた。

- ▼ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため削減していた施設内共用スペースの座席について、5類感染症移行に伴い座席数を復元し、利用者の利便性向上に努めた。
- ▼ 緊急時の連絡体制を構築するとともに、指定管理の仕様書に記載されている内容の保険には、継続して加入している。
- ▼ 札幌文化芸術劇場の高度な舞台機構や音響・照明設備を、高い専門性を持った舞台技術スタッフを配置することにより、劇場の特性を最大限に活かした公演の運営・提供に努めた。
- ▼ 劇場公演における劇場案内及びエスカレーター安全誘導を一括して専門的な知識または経験を有する専門事業者に委託し、利用者が安心して観劇できるよう努め、満足度向上に繋げた。
- ▼ 施設賠償責任保険（施設所有（管理）者賠償責任保険及び昇降機危険補償、マネー包括保険、受託者賠償責任保険、自動車管理者賠償責任保険）・施設災害補償保険に加入し、利用者及び職員への適切な補償体制を整備した。
 また、施設賠償責任保険における賠償額は、対人・対物とも仕様書に示す基準補償額としている。
 対人補償：10億円（1人5千万円）
 対物補償：2千万円

- ▽ 施設・設備等の維持管理（清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等）
 - ▼ プラザ内の各施設（劇場、センター、諸貸室）において、計画的な清掃・警備を行い、美化・安全確保に努めた。また、備付備品や貸出備品についても、定期的に点検を行い、常に利用者が最良の状態で使用できるよう維持・管理を行った。
 - また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施していた、貸出施設や備品、利用者用ロッカー、エレベーター内操作盤等の消毒・換気について、5類感染症移行に伴い、対策の見直しを行ったうえで必要な消毒・換気を継続した。
 - ▼ 施設などの修繕は、市民利用に支障が生じないように、緊急度や破損状況を考慮して、加圧給水ポンプユニット圧力タンクの交換、シャッター開閉機・非常電源装置用バッテリーの交換、劇場内開放型スプリンクラー設備の修繕、照明制御装置予防保全などを実施した。
 - ▼ 施設設備については、日常点検をはじめ、不具合が発生した際は早期発見・対応が可能なように設備保守の常駐委託事業者と密に連携を図った。
 - ▼ 施設への搬出入用駐車場については、運用マニュアルを作成して管理運営を行い、警備員との連絡を密にして駐車場の利用者が安全、かつ円滑に駐車できるように努めた。なお、共用部（緑化等）はさっぽろ創世スクエアの管理組合が適切に管理している。

▽ 防災

- ▼ 令和5年6月に職員を対象とした座学研修を行い、防災に関する基本的な知識、消火器の使用方法、避難経路についての講習を行った。同年10月には、昨年度より再開した「避難訓練コンサート」を開催し、実際に来場者を動員し避難誘導をすることで、災害発生時の行動について訓練を行った。
- ▼ 札幌市民交流プラザ危機管理規程に基づき、危機管理マニュアルを策定している。危機が発生した場合の行動及び責任者等を定めることで、一般利用者及び勤務する職員、あるいは当該施設等に重大な被害が及ぶ恐れがある様々な危機を想定し、事象が発生した場合における被害及び混乱を最小限に食い止め、来館者、職員及び施設の安全を確保することを目的としている。また、安全品質向上のため日々見直し改訂している。
- ▼ 「札幌都心地域帰宅困難者対策ガイドライン」に基づき、札幌市が定める一時滞在施設として、札幌市民交流プラザが果たすべき役割や開設準備、運営体制などを明確にすることで、災害発災（主として震度5弱以上の地震発生）後の迅速な一時滞在施設の開設と円滑な運営を実現するため、一時滞在施設マニュアルを策定した。

4 事業の計画・実施業務

▽ 札幌文化芸術劇場に関する事業

▼ 創造事業

hitaruを「創造の場」として地元で活躍する様々な芸術団体との連携のもと札幌発の実演芸術公演を展開し、市民に質の高い文化芸術に触れる機会を提供した。令和5年度は、地元のバレエ団体、実演芸術家などの協力を得てhitaruを舞台としたバレエを創造・発信する「hitaru バレエプロジェクト」の第1回として、「くるみ割り人形」（全幕）を上演し、全3公演チケット完売となった。また、出演者からスタッフまで、全メンバー道内在住の人材を起用し、約1年間の制作期間により創り上げた「Creative Art Mix」をクリエイティブスタジオで開催した。さらに、令和6年度に開催する第2回 hitaru オペラプロジェクト モーツァルト「ドン・ジョヴァンニ」公演に向けて、キャストオーディション及びコレペティートル研修を実施した。

○hitaru オペラプロジェクト 「くるみ割り人形」（全幕）【自主事業】

《関連事業》

- ・札幌大谷大学・札幌文化芸術劇場 hitaru 連携事業 札幌大谷大学「アートプログラム 2023」第2回 バレエ「くるみ割り人形」見どころ・聴きどころ
- ・「くるみ割り人形」特別フェア
- ・「くるみ割り人形」（全幕）有料アーカイブ配信

○Creative Art Mix Vol.2～Classical Jewels～

《関連事業》

・Creative Art Mix ダンスワークショップ Vol.2 2023

○hitaru オペラプロジェクト モーツァルト作曲「フィガロの結婚」有料アーカイブ配信【自主事業】

○hitaru オペラプロジェクト モーツァルト作曲「ドン・ジョヴァンニ」【自主事業】

《関連事業》

・キャストオーディション

・コレペティトール研修

▼ 鑑賞事業

多面舞台と最新の舞台機構を生かし、世界水準のバレエ、ダンスなど本格的な舞台芸術による「鑑賞の場」を多彩な内容で市民に提供した。また、親しみやすい内容の公演を低廉な入場料で開催し、幅広い層の市民に実演芸術の魅力を伝えた。

○新国立劇場オペラ リヒャルト・シュトラウス「サロメ」

【全1幕／ドイツ語上演／日本語字幕付】

《関連事業》

・札幌大谷大学学長によるレクチャー動画の配信

○札幌市民交流プラザ開館 5 周年事業 2023 グランドオペラフェスティバル in Japan シュトゥットガルト州立歌劇場との提携公演

東京二期会オペラ ジュゼッペ・ヴェルディ『ドン・カルロ』 オペラ全 5 幕（イタリア語 5 幕版）日本語字幕付原語（イタリア語）上演《新制作》

《関連事業》

・札幌大谷大学・札幌文化芸術劇場 hitaru 連携事業 札幌大谷大学「アートプログラム 2023」第 1 回 オペラ「サロメ」見どころ・聴きどころ

○ hitaru のひととき

・「CLASSIC & JAZZ SPECIAL NIGHT CONCERT」

・「ひろしま神楽」

・「パット・メセニー ドリーム・ボックス・ソロ・ツアー」

▼ 共催事業の誘致

これまで札幌での開催が少なかった魅力ある大規模公演等の誘致に向けた取り組みを進めた。

アニメ化や実写映画化もされた人気コミック「キングダム」の初舞台、開館より継続して開催しているさっぽろ落語まつりの第四回公演、1993 年に日本初上陸して以降各地で好評を博してきた劇団四季の代表的ミュージカル『クレイジー・フォー・ユー』、1997 年にスタートした歴史あるコンサートの第 26 回公演

の HTB ジルベスターコンサート、累計発行部数 1 億 2,000 万部を誇る荒木飛呂彦の大人気コミックシリーズ「ジョジョの奇妙な冒険」を初のミュージカルを共催した。

- ① 舞台「キングダム」
期日：令和 5 年 5 月 6 日（土）～11 日（木）
総入場者数：11,610 人
- ② 第四回さっぽろ落語まつり
期日：令和 5 年 5 月 26 日（金）～28 日（日）
総入場者数：5,233 人
- ③ ミュージカル『クレイジー・フォー・ユー』
期日：令和 5 年 10 月 26 日（木）、27 日（金）
総入場者数：3,809 人
- ④ 2023 HTB ジルベスターコンサート
期日：令和 5 年 12 月 31 日（日）
総入場者数：1,437 人
- ⑤ ミュージカル「ジョジョの奇妙な冒険 ファントムブラッド」
期日：令和 6 年 3 月 26 日（火）～30 日（土）
総入場者数：7,974 人

▼ 普及・育成事業

先進の舞台芸術を広く市民に紹介するとともに、舞台芸術活動の将来を担う世代の育成を目的に、多彩な芸術文化の提供と、教育的価値の高い事業を展開した。

- 青少年向けバレエ鑑賞事業(鑑賞事業・配信事業)
- クリエイティブスタジオ事業
 - ・シネマシリーズ 6 映画へと導く映画（岨手由貴子監督）
 - ・シネマシリーズ 7 映画へと導く映画（三宅唱監督）
 - ・青年団「ソウル市民」 作・演出：平田オリザ
 - ・範宙遊泳 バナナの花は食べられる
- 《関連事業》
 - ・平田オリザによる青年団「ソウル市民」プレレクチャー
- 札幌大谷大学・札幌文化芸術劇場 hitaru 連携事業
 - ・アートプログラム 2023 第 1 回オペラ「ドン・カルロ」見どころ・聴きどころ
 - ・アートプログラム 2023 第 2 回バレエ「くるみ割り人形」見どころ・聴きどころ

▼ 交流事業

札幌文化芸術劇場 hitaru、クリエイティブスタジオ、札幌文化芸術交流センターSCARTS、札幌市図書・情報館など、さまざまなジャンルの事業展開が可能な市民交流プラザの特性を活かし、多様な市民に参加・交流の場を提供して、多くの市民が文化芸術に触れることで施設のにぎわい創出につながる事業を実施した。

○PLAZA FESTIVAL 2023

- ・東京二期会オペラ「ドン・カルロ」
- ・札幌芸術の森クラフトキャラバンワークショップ
- ・MORIHICO. マルシェ・ドウ・グルニエ×プラザ・マルシェ
- ・札幌国際芸術祭 2024 の巡り方、楽しみ方
- ・北日本アートセンターミーティング
- ・SCARTS 5th Anniversary Party
- ・絵本で楽しむ「くるみ割り人形」の世界
- ・札幌市図書・情報館 5 周年企画

▼ 舞台技術向上に向けた取組

全道の創造型劇場の中核として、舞台技術者の技術・技能の向上や知識・経験の共有を図るため、舞台技術者、劇場職員、舞台技術専攻の学生を対象とした舞台技術セミナーを開催した。

○第4回 hitaru 舞台技術セミナー ―知らないこと、それがキケンです―

また、高度な舞台機構や音響・照明設備を活用できる本劇場の舞台技術スタッフが他の劇場、音楽堂等及び実演芸術団体等と連携・協力し、地元の文化芸術の水準を高めるための取組として、舞台監督等の技術協力支援を行った。

①札幌舞踊会 本部お楽しみ会☆支部・カルチャー発表会

会場：札幌市民ホール

②WE LOVE BALLET Golden Week Concert 2023

会場：札幌市民ホール

③DANCE STUDIO LoRe 発表会「BON VOYAGE vol.6」

会場：札幌サンプラザコンサートホール

④アトリエ Noa 第6回発表会

会場：幕別百年記念ホール

⑤小林絹恵バレエスタジオ 第6回定期発表会

会場：札幌市民ホール

⑥小樽市民会館 開館 60 周年記念バレエくるみ割り人形全幕公演

会場：小樽市民会館

⑦アンジュバレエスタジオ 30 周年記念公演

会場：帯広市民文化ホール 大ホール

⑧第 64 回子ども舞踊祭

会場：札幌市民ホール

▽ 札幌文化芸術交流センターに関する事業

▼ 誰もが気軽に文化芸術に触れられる場や機会を創出し、都心部のにぎわいを生み出す事業を展開した。

また、地元アーティストや他分野との連携などにより、札幌ならではの特徴的な事業を構築し、地域の魅力づくりに寄与するとともに、SCARTS の認知度向上に繋げた。

【SCARTS クリエイションプロジェクト（リサーチ）】

【SCARTS メディアアーツシリーズ】

①SCARTS×CoSTEP 研究会

「みんなで考えるアート&サイエンスワークショップ」

②SCARTS×CoSTEP ツアー&ワークショップ

「高校生と考えるアート&サイエンス」

【SCARTS 連携事業】

①大学連携コンサート

・大学連携コンサート 北海道教育大学岩見沢校

「クラシックとジャズの出会い〜カプースチンとアメリカ」

・大学連携コンサート 札幌大谷大学

「ピアノジョイントコンサート 情熱の鼓動」

②第 52 回 SAPPORO ぶんだんきょうフェスティバル

③SCARTS×さっぽろ天神山アートスタジオ「天神山、まちにいく。」

④さっぽろアートステージ 2023 ART STREET

・キッズアートフェス

⑤NoMaps2023

⑥第 4 回アートボランティアウィーク 2023@SCARTS

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

⑦札幌市図書・情報館セミナー

・女性のための起業のヒント

・“もしも、あなたが…”

～がんを知らないとジャッジもチョイスもできない～”

・“つながりを仕事に～フィリピンから学ぶ起業のノウハウ～”

・「サイエンスコミュニケーションとアートを融合する」

～札幌から始まるアートでつなぐサイエンス～

・好きを仕事に生きること

～現役選手と社長に聞く地域スポーツの魅力～

- ・「社会貢献」で起業するソーシャルビジネスセミナー
- ・劇団イナダ組×法テラス

法テラス劇場「トラブル回避のための選択肢」

～その「悩み」は、「微笑み」に変わった。～

- ・夜パフェ専門店とショートケーキ缶ができるまで・できたあと
- ・いっぱいミルクから広がる、未来へのチカラ

～町村農場 100 年、持続可能な経営戦略～

- ・FirstStep!初めての創業セミナー

～図書・情報館からはじまる起業準備～

- ・ひとのふんどしでのすもうのとりかた

～自分で作（や）らないクリエイティブ～

- ・起業実現にむけた上手な相談のしかた（さっぽろ産業振興財団）
- ・マンガがつくる、札幌のミライ

⑧彫美連続講座 2023

⑨札幌市教育文化会館×札幌文化芸術交流センター

SCARTS×札幌市図書・情報館 三館連携事業能楽展 2023

白鏡～明滅の虚空～／黒戯～幽闇の隠者～

【SCARTS パブリックリレーションズ】

①西 2 丁目地下歩道映像制作プロジェクト

- ・西 2 丁目地下歩道映像上映
- ・空族 台湾先遣隊調査報告
《ILHA FORMOSA》特別上映&アーティストトーク
- ・空族《典座-TENZO-》上映&富田克也監督トーク

②プラザフェスティバル 2023

- ・まもなく初の冬開催！札幌国際芸術祭 2024 のめぐり方、楽しみ方
ディレクター&キュレーターズトーク
- ・北日本アートセンターミーティング
- ・スカーツパーティ
- ・絵本の読み聞かせ「くるみわり人形」の世界
- ・札幌芸術の森クラフトキャラバン 森のわくわくワークショップ

③SCARTS アニュアルレポート

▼ 文化芸術活動支援事業・文化芸術に関する調査研究事業

市民やアーティスト等の活動活性化やキャリアアップへの支援として、文化芸術情報を収集・発信できる場を提供するとともに、文化芸術に関する課題や悩みなどの相談も受け付けた。

また、文化芸術に関わる方々を対象とした講座や相談会等も開催し、札幌で文化芸術活動が行いやすくなるような環境づくり、

意欲的な企画を公募により実施する企画公募事業、札幌の文化芸術振興に寄与する質の高い活動を支援する助成金交付事業など、幅広い層を対象に様々な形でのサポートを行った。

さらに、調査研究の一環として、SCARTS の取り組みを学術的な場に集う関係者・研究者へ PR し、意見交換を行う日本アートマネジメント学会全国大会において、SCARTS サポート事業を軸に、SCARTS が有する中間支援機能について実践報告を行った。

【SCARTS サポート事業】

①SCARTS 相談サービス

②SCARTS ラーニングプログラム

- ・「助成金はじめの一步」 レクチャー&相談会

③公募企画事業

- ・ SCARTS 企画公募 2024
- ・ 岸田理生アバンギャルドフェスティバル in Sapporo
岸田理生没後 20 年記念公演「恋の激情・火學お七」
〈関連プログラム〉
 - ・ 演劇ワークショップ講座
- ・ シロとメロの暮らし展
〈関連プログラム〉
 - ・ 不用品がよみがえるワークショップ シルクスクリーン絵付け体験
 - ・ 弾き語りライブ
- ・ 崑久一本店創業百周年記念展
「崑久一 100 年～まちとアートと家族の物語」
〈関連プログラム〉
 - ・ オープニングイベント 仮装パフォーマンス
 - ・ オープニングイベント 出展作家によるアーティストトーク
 - ・ トークイベント 札幌（まち）と崑久一の 100 年物語
- ・ 横須賀令子アニメーション個展 「波と風のもののけたち」

④札幌文化芸術交流センター SCARTS 文化芸術振興助成金交付事業

＜令和 5 年度助成金交付＞

- 特別助成事業 1 件、一般助成事業 19 件 総額約 550 万円
- ・ 令和 5 年度 札幌文化芸術交流センター SCARTS
文化芸術振興助成金交付事業 活動報告会・交流会

＜令和 6 年度内定＞

- 応募件数 107 件
- 特別助成事業 2 件、一般助成事業 15 件、総額 700 万円内定
- ・ 令和 6 年度 札幌文化芸術交流センター SCARTS

文化芸術振興助成金交付事業 募集説明会

参加者数：51 人

⑤文化芸術に関する調査研究事業

・調査研究

5 施設利用に関する業務

▽ 利用件数等

		R4年度実績	R5年度実績	前年比
劇場	件数(件)	261	284	108.8%
	人数(人)	297,019	356,807	120.1%
	稼働率(%)	87.7%	92.4%	105.4%
クリエイティブスタジオ	件数(件)	302	357	118.2%
	人数(人)	24,491	40,002	163.3%
	稼働率(%)	86.0%	93.5%	108.7%
練習室等	件数(件)	4,280	5,434	127.0%
	人数(人)	34,649	54,588	157.5%
	稼働率(%)	73.5%	85.9%	116.9%
センター	件数(件)	2,436	2,958	121.4%
	人数(人)	124,940	247,294	197.9%
	稼働率(%)	76.9%	87.9%	114.3%

▽ 不承認 0 件、取消し 51 件、減免 2,467 件、還付 80 件

▽ 利用促進の取組

▼ 一斉受付実施の告知

ホームページにて、次回の一斉受付の告知を毎月行った。

▼ 利用者からのご要望の改善

利用者アンケートに基づき、利用者からのご要望のあった点を共有するとともに、改善に向けて検討を行った。

▼ 利用者登録制度の導入

定例的、継続的な諸室利用者がよりスムーズな申請手続きを行えるよう、利用者登録制度を導入し、登録者は申請から施設利用料の支払までを同時に行えるようにした。

▼ 劇場公演鑑賞の利便性向上

劇場公演の鑑賞時にお子さまを対象として貸出しているキッズクッションについて、50 個を追加購入して計 100 個の所持数とし、より多くのお子さまにご利用

用いただけるよう利便性向上を図った。

6 付随業務

▽ 広報業務

▼ 広報

①広報誌作成と事業広報との連携強化

公演・イベントの周知、チケット販売促進や、施設入館者数の目標達成を目指し、広報誌等の印刷物やウェブサイト、SNS 等の多様な媒体を活用して、札幌市民交流プラザの機能や事業の広報を積極的に行った。

(1) 広報誌「wave times+」

令和4年度まで発行していた情報誌「WAVE TIMES」、イベントスケジュール誌「PLAS」を1誌に統合し、新たに「wave t i m e s +」(年6回発行)としてリニューアルした。広報誌は区役所等の市内公共施設や関係団体へ送付したほか、公演・イベント会場等でも広く配布した。加えて、リニューアルを機に WEB での情報発信を強化するために WEB マガジン版も新たに作成し、で公開した。リニューアル後に連載を開始した「アートって楽しい！」では札幌市芸術文化財団が指定管理を行う6施設を紹介し、市民交流プラザ以外の施設での事業についても積極的に広報を行った。

(2) 地下鉄パンフレット広告

主要駅の地下鉄フリーパンフレットコーナーにて、広報誌「wave times+」を配架した。

(3) 協賛広告枠の活用

札幌文化芸術劇場 hitaru オフィシャルスポンサー企業の広告協賛枠等を活用し、地下鉄大通駅コンコース及び地下街オーロラタウン、丘珠空港、市内大型スーパーマーケット、路線バス車内等において動画の放映やチラシの配架、ポスター広告の掲示等を行った。また、市民交流プラザの認知度、並びにアクセスについての情報を広く周知するため、15 秒の広告動画をさっぽろ地下街の「AUMIRU ビジョン」「HILOSHI ビジョン」の2ヵ所で上映した。

②ホームページ、SNS などを活用した広報

ホームページを通じて、主催事業や貸館公演などのイベント情報を随時発信し、広く札幌市民交流プラザの周知を図るとともに、英語・中国語(簡体字、繁体字)・韓国語に対応した翻訳ツールを導入し、外国人向けに情報発信を行った。ウェブアクセシビリティへの対応にも留意し、JISX8341-3:2016 の適合レベル AA 準拠を維持した。

また、X、Facebook、Instagram といった SNS も活用し、即時性のある情報を発信した。

- ・公式ホームページアクセス数
令和5年度:1,544,776件
(参考) 令和4年度:1,476,048件
- ・札幌市民交流プラザメンバーズホームページアクセス数
令和5年度:140,191件
(参考) 令和4年度:159,290件

③メディア対応とプレスリリース

市民交流プラザについての取材依頼、パブリシティ掲載などに対応し、市民交流プラザの認知度を高めるとともに、市民交流プラザ全体で行われる事業や共催事業などのプレスリリースを行い、周知やチケット販売促進につなげた。

④その他の広報制作物

(1)「創成おさんぽ MAP」

近隣地域のにぎわいを醸成するため、札幌市民交流プラザメンバーズ会員向け特典提供店を紹介する地図形式の冊子を作成し、メンバーズ(DM会員)に送付したほか、協力店舗や札幌市民交流プラザ館内各所で配架した。また、利用促進のため、秋にはSNSを活用した「#おさんぽ MAP キャンペーン」を実施した。

(2)「ホテルグルメ特集」

「創成おさんぽ MAP」に掲載のホテルについて、メンバーズ会員証の提示で受けられる特典をまとめた「ホテルグルメ特集」を年3回発行し、メンバーズ(DM会員)に送付し、館内各所に配架したほか、メンバーズ(WEB会員)にはピックアップ情報として定期的にメールマガジンにて発信した。

▼ 利用促進

①施設利用に関するチラシの配架

札幌文化芸術劇場 hitaru 及び札幌文化芸術交流センター SCARTS 諸室の貸館利用促進に向け、地元興行主との情報交換を密にするほか、「ご存じですか？プラザの貸室使い方いろいろ」を配布して会議や練習での利用を促した。

②会員制度

(1) 会員制度の募集及び運営

主催公演のチケット先行発売や公演情報の提供などを特典とする会員制度「札幌市民交流プラザメンバーズ」を運営。令和6年3月31日までにWEB会員48,933人、DM会員633人、計49,566人の会員を集めた。

(参考) 令和4年度:WEB会員42,690人、DM会員691人、計43,381人

(2) 会員特典

- ・メールマガジン配信(WEB会員向け、原則1ヶ月に2回)
- ・ダイレクトメール送付(DM会員向け、原則奇数月)
- ・hitaru 主催公演のチケット先行発売

- ・プラザ内カフェ・レストランでの優待
- ・近隣のホテル・飲食店等での各種優待
- ・避難訓練コンサートへの参加（メンバーズ限定）

③協賛制度の募集及び運営

札幌文化芸術劇場 hitaru の主催共催事業の充実を目的とする「hitaru オフィシャルスポンサー」制度を運営。

令和 5 年度のスポンサーとして、法人 103 社、個人 52 人、計 155 件（8,708 万円及び広告枠）の協賛を獲得した。

▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等

▼ 市内企業等の活用

施設の管理運営に必要な再委託業務について、概ね札幌市内に事業所を有する企業に発注した。

▼ 福祉施策への配慮

避難誘導ペーパーの印刷作業や主催事業に係るちらしの封入作業を市内の福祉施設に発注したことに加え、設置している自動販売機のうち 1 台を、市内の社会福祉団体に依頼した。

7 利用者へのアンケート、利用者等からの主な意見、要望等

▽ 利用者アンケートの結果

実施方法	施設を利用する主催者および主催事業の来場者へアンケート用紙を配布するほか、館内にアンケート台を設置。施設・設備の使い勝手の良さや、職員対応等に対する意見・要望の把握に努めた。
結果概要	貸館利用者・主催事業の来場者の施設に対する総合的な満足度は 94.4%、職員対応の満足度は 95.9%であった（「満足」「おおむね満足」「普通」合計）。 また、貸館利用者の 96.9%が「また利用したい」と回答した。 全体回答数：7,916 件
利用者からの意見・要望とその対応	・予約申し込みのネット化希望 →現在ネット予約実現に向け、新システムの開発準備を行っている。 ・電話での仮予約ができると良い ・劇場の貸出キーの専用ボックスがあるといい →劇場のキー(16 本)をまとめて収納できる貸出用キーボックスを作成した。 ・いつも綺麗な施設で使いやすいです。

Ⅱ 管理業務に係る収支決算

▽ 収支

(千円)

項目	R5年度計画	R5年度決算	差(決算・計画)
収入	1,457,863	1,548,033	90,170
指定管理業務収入	1,394,276	1,462,274	67,998
指定管理費	1,031,145	1,036,382	5,237
利用料金	227,271	260,825	33,554
その他	135,860	165,067	29,207
自主事業収入	63,587	85,759	22,172
支出	1,538,207	1,477,014	▲ 61,193
指定管理業務支出	1,425,564	1,383,370	▲ 42,194
自主事業支出	112,643	93,644	▲ 18,999
収入-支出	▲ 80,344	71,019	151,363
利益還元			0
法人税等			0
純利益	▲80,344	71,019	151,363

▽ 説明

▼ 指定管理費について

今期は、令和5年4月から令和6年3月までの期間における、光熱費高騰分の補填を受けたことにより増収となった。

▼ 収入について

主催事業の入場料収入が堅調であったことに加え、他施設の休館の影響を受けて貸室の稼働率が上昇し、利用料金収入が想定より大幅に増加した。

また、舞台芸術等総合支援事業（劇場・音楽堂等機能強化総合支援）の採択により、収入が大幅に増加した。

▼ 支出について

主催事業に係る舞台セット等の支出が想定よりも増加したが、各事業に要する経費の削減に努め、全体的として計画よりも支出を抑えることができた。

Ⅲ 管理に関する協定書 第33条に規定する自主事業の実施状況

1 飲食・物販事業

▽ カフェ、レストラン事業

施設の賑わいの創出とともに寛ぎの空間を提供することを目的に、カフェ「MORIHICO. 藝術劇場」及びレストラン「DAFNE」を営業。また、自動販売機を館内に7台設置している。

▼ レストラン「DAFNE」にて、クリスマスメニューやお節の販売、創世スクエアオフィス棟の企業へのフライヤーポスティング、45分間で楽しめるランチメニュー「プラド45」の提供などを前年度より継続し、利用者のニーズに対応した営業を行った。

▼ 新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、営業時間の延長や、完全予約制としていたレストラン「DAFNE」のディナー営業にフリーオープン日を設けることで、より多くの来館者へご利用頂けるよう努めた。

▼ 施設と各委託事業者の月例会議(CS会議)に代表者1名が出席することとし、劇場・クリエイティブスタジオの公演情報(来場見込み等)を事前に共有することで、カフェ・レストランともに無駄のない営業に務めた。